

理学部宇宙物理・気象学科 談話会のお知らせ

理学部宇宙物理・気象学科では4月24日（水）13時15分より、教室談話会を開催いたします。今回は鹿児島大学天の川銀河研究センターの和田桂一教授をお招きして、巨大ブラックホールについてお話いただきます。皆様お誘いあわせのうえ、ぜひご出席ください。

日時： 2019年4月24日（水）13:15-14:45

場所： 万有館4階 B405教室

題名： 巨大ブラックホールまわりの動的ガス構造—理論モデルの最近の展開—

要旨：

銀河の中心には太陽質量の100万から10億倍もの巨大なブラックホールが存在しており、その強い重力圏にガスが落ち込むことで、太陽系ほどのサイズから、銀河全体に匹敵するほどの莫大なエネルギーを放射している。これを「活動銀河中心核」(Active Galactic Nuclei = AGN)という。AGNはそのサイズが小さく、従来望遠鏡による観測で空間分解することが難しかったため、その構造には謎が多い。

われわれは、数値流体計算と輻射輸送計算によって、巨大ブラックホールまわりのガス（流体）と放射場（光）の相互作用の理論モデルを研究してきた。最近、ALMAなどの高分解能の観測結果がでてきたことで、理論モデルと観測結果を直接比較することが可能になり、近傍の銀河でわれわれの理論モデルが整合的であることがわかってきた。本講演では、専門知識のない学部学生にもできるだけわかりやすく、AGNに関する最近の研究の進展を紹介したい。

問い合わせ先：

理学部宇宙物理・気象学科 諏訪雄大・安藤紘基

Email: suwa_AT_cc.kyoto-su.ac.jp